

(公印省略)

12病防第24号の12
平成13年3月30日

各関係機関の長 殿

福岡県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について(送付)

このことについて、病虫害発生予報第1号(4月)を発表したので送付します。

平成13年度病虫害発生予報第1号(4月)
主要病虫害の発生現況及び予報の概要

【普通作物】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
麦類	赤かび病	-	並

【普通作物】

1 麦類の赤かび病

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

4月の気象予報では、気温及び降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 赤かび病の発生は品質低下の大きな原因となるので、必ず防除を行う。穂が病原菌に感染しやすい時期は開花期であるため、防除適期は小麦で開花期(出穂後7~10日頃)、大麦で穂揃い期(出穂後1~4日)である。防除適期を過ぎると防除効果が低下するので、気象情報や生育状況に留意し防除適期を失しないようにする。

これらの時期に降雨や曇天が続き多発生が予想される場合には、1週間後にもう一度防除を行う。

イ 農業総合試験場の作況調査によると、出穂期は小麦で平年よりやや遅く、大麦で平年並と予想されている(平成13年3月23日付け福岡県米麦大豆改善速報第13号を参照)。

ウ 降雨の合間に薬剤防除を行う場合、粉剤では散布後5~6時間以内に降雨があると効果が減少するが、液剤では散布後に薬液が乾くとその後の降雨による効果の低下はない。

エ 防除薬剤は「平成13年度普通作物病虫害防除基準」を参照する。

【果 樹】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
カンキツ	そうか病 ※ かいよう病 ※ ミカンハダニ ※	やや少ない 少ない 並	やや少ない 少ない 並
ナシ	赤星病 黒星病	- -	やや少ない やや少ない
ブドウ	黒とう病	-	少ない
カキ	フジコナカイガラムシ	多い	多い

発生現況及び発生予想は、前年までの3～7か年の平均値を平年値とした。

【果 樹】

1 カンキツのそうか病

(1) 予報の内容

発生量：平年（前7か年平均）よりやや少なく、前年並

(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬の調査の結果、旧葉の発病葉率は平均0.4%（平年：0.8%、前年：0.2%）であった。

イ 4月の気象予報では気温、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発芽直後～展葉期の防除を徹底する。

イ 罹病葉は伝染源になるので除去する。

ウ 防除薬剤は「平成13年度果樹病虫害防除基準」を参照する（以下の病虫害についても同様）。

2 カンキツのミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年（前6か年平均）・前年並

(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬の調査の結果、寄生葉率は平均2.9%（平年：3.9%、前年：1.0%）であった。また、発生ほ場率は21.4%（平年：30.5%、前年：31.3%）であった。

イ 4月の気象予報では気温、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発生の見られる園では、雌成虫の寄生葉率30～40%を目安に防除を行う。

イ 薬剤防除に当たっては、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

3 ブドウの黒とう病

(1) 予報の内容

発生量：平年より少なく、前年並

(2) 予報の根拠

- ア 昨年の発生が少なかったため、越冬菌量は少ないと予想される。
- イ 4月の気象予報では気温、降水量は平年並と予想されている。
- (3) 防除上注意すべき事項
 - ア 頂芽の展葉2～3枚の時期の薬剤防除を徹底し、初期発病を抑える。
 - イ 罹病枝や前年取り残した巻きひげは極力除去する。

4 カキのフジコナカイガラムシ

- (1) 予報の内容
 - 発生量：平年・前年より多い
- (2) 予報の根拠
 - ア 前年の収穫期の寄生果率は、平均18.3%（平年：7.5%、前年：5.0%）で、越冬量は平年より多いと予想される。
 - イ 4月の気象予報では気温、降水量は平年並と予想されている。
- (3) 防除上注意すべき事項
 - ア 越冬世代幼虫が新梢に移動する4月中旬から下旬に防除を徹底する。
 - イ 前年発生の多いところは、1回目の散布後7～10日後に更に防除する。

【野菜】

作物名	病害虫名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
トマト	灰色かび病 菌核病 葉かび病 コナジラミ類	やや多い 並 やや少ない やや多い	やや多い 並 やや少ない やや多い
冬春ナス	灰色かび病 すすかび病 ミナミキイロアザミウマ	やや少ない 並 やや少ない	やや少ない 並 やや少ない
冬春キュウリ	べと病 うどんこ病 灰色かび病 褐斑病	やや多い 並 並 やや多い	やや多い 並 並 やや多い
イチゴ	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	やや少ない 並 やや少ない 多い	並 並 やや少ない 多い

【野菜】

1 トマトの灰色かび病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、発病果率は1.1%（平年：0.7%・前年：0.4%）であった。

イ 気象予報では、4月の平均気温は平年並で、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 換気を行い、多湿にならないように管理する。

イ かん水過多にならないように注意する。

ウ 発病葉、発病果は伝染源となるため、必ず除去し処分する。

エ 本病の各種薬剤に対する感受性が低下するのを避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだローテーション散布を行なう。

オ 曇雨天時など液剤の使用が困難な場合は、くん煙剤が有効である。

カ 防除薬剤は「平成13年度野菜病害虫防除基準」を参照する。農薬安全使用基準を守り、危被害防止に努める（以下の病害虫についても同様）。

2 トマトのコナジラミ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、寄生葉率は平均10.8%（平年：8.5%、前年：5.3%）であった。

イ 気象予報では、4月の平均気温は平年並で、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア オンシツコナジラミの発生が主であるが、一部のほ場ではシルバーリーフコナジラミの発生も認められる。種によって登録薬剤が異なる場合があるので、薬剤の選定に注意する。

イ 黄化葉巻病の発生地域では、シルバーリーフコナジラミの侵入、飛散を防ぐため、天窓やサイドに防虫網をはる。

ウ 多発生後は防除が困難であるため、発生初期のうちに防除を徹底する。

エ 本害虫の各種薬剤に対する感受性が低下するのを避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだローテーション散布を行う。

3 ナスのすすかび病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、発病葉率は平均11.7%（平年：25.2%、前年：15.0%）であった。

イ 気象予報では、4月の平均気温は平年並で、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 換気を行い、多湿にならないよう管理する。

イ 草勢の低下で発病が助長されるので、着果量の調整や、適切な肥培管理を行う。

ウ 本病原菌の各種薬剤に対する感受性低下を避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだロ-テ-ション散布を行う。

4 キュウリのべと病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年並

(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、発病葉率は平均41.0%（平年：12.5%、前年：42.1%）であった。

イ 気象予報では、4月の平均気温は平年並で、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 肥料切れになると発生が助長されるので、適正な施肥を行う。

イ 換気を行い、多湿にならないよう管理する。

ウ 本病原菌の各種薬剤に対する感受性低下を避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだロ-テ-ション散布を行う。

5 キュウリの褐斑病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、発病葉率は平均3.2%（平年：0.1%、前年：0%）であった。

イ 気象予報では、4月の平均気温は平年並で、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 病勢が進展してからでは防除が困難であるため、発病初期のうちに防除を徹底する。

イ 換気を行い、多湿にならないよう管理する。

6 イチゴのハダニ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、寄生株率は平均10.2%（平年：4.2%、前年：2.2%）であり、一部ほ場で多発している。

イ 気象予報では、4月の平均気温は平年並で、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発生後は防除が困難なので、発生状況をよく観察し、早期防除に努める。

イ 摘葉された葉に寄生しているハダニは、摘葉後急速に移動するのでほ場内に放置せず、ビニル袋等に入れて密封し処分する。

ウ 本害虫の各種薬剤に対する感受性が低下するのを避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだローテーション散布を行う。

【茶】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
茶	カンザワハダニ	少ない	やや少ない

【茶】

1 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

ア 発生時期：平年・前年並

イ 発生量：平年・前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬の調査の結果、寄生葉率は平均0.9%（平年：6.0%、前年：1.5%）で、50葉当たり寄生虫数は平均0.5頭（平年：11.5頭、前年：3.8頭）であった。

イ 気象予報では、4月の平均気温、降水量ともに平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発生のみられない茶園もあるので発生状況を調べ寄生葉率が2%以上である場合は防除を行う。

イ 本害虫の各種薬剤に対する感受性が低下するのを避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだローテーション散布を行う。

ウ 防除薬剤は「平成13年度茶病虫害防除基準」を参照する。農薬安全使用基準を守り、危被害防止に努める。

4月の気象予報（1か月）

（予報期間3月24日～4月23日）

2001年3月23日

福岡管区气象台発表

【概要】

向こう1か月の平均気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並の可能性が大きいでしょう。

【要素別確率】

（単位％）

要素	低い （少ない）	平年並	高い （多い）
気温	30	50	20
降水量	30	50	20
日照時間	20	50	30

- < 1週目の予報 > 3月24日～3月30日
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。
- < 2週目の予報 > 3月31日～4月6日
この期間の平均気温は、平年より低い可能性が大きいでしょう。
- < 3～4週目の予報 > 4月7日～4月20日
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。

参考資料

福岡における平年値

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温

向こう1か月			平均気温（ ）		
平均気温（ ）	降水量（mm）	日照時間（h）	1週目	2週目	3-4週目
13.5	122.3	171.7	11.3	12.6	14.5

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について、ホームページとテレホンサービスでお知らせしています。アドレス及び番号は下記の通りです。

ホームページアドレス

www.jppn.ne.jp/fukuoka

電子メールアドレス

kfok0301@sp.jppn.ne.jp

テレホンサービス

092-928-6401（普通作・イグサ）

092-928-6402（果樹）

092-928-6403（野菜・茶）